

が大切です。なぜなら、気管支喘息の気道炎症はちょっとやそつとではよくならない為です。したがって、発作が全くなくなっても、発作が起きないように予防する管理薬として続けることが肝心です。

さて、吸入ステロイド薬の副作用についてお話しします。よくアトピー性皮膚炎の患者さんや保護者の方に「ステロイドって怖い薬でしょ」と尋ねられることがあります。「どうして怖いのですか？」と聞き返すと、ほとんどの方がはつきりとした答えは持っていません。実は、「強い薬」→「得体のしれないもの」→「怖い」という認識ですね。まるで明治維新のときに現れた黒船に乗る外国人を「赤鬼」に例えたように、知識がないと恐れる気持ちになりやすいのでしょうか。実はステロイド薬はとてもよく効く抗炎症薬です。また皮膚と違い、気管支の粘膜に対しては副作用が現れにくいと言われていきます。その差はまだ明確にはなっていませんが、どうも皮膚や気道粘膜に備わっている「自然免疫」の力が影響しているそうです。いずれにしても、まずどのような副作用があり、どうしたら防げるのかを知っておくことが不安や恐れを取り除く第一歩です。

ステロイド薬の副作用には、直接投与した気道に起こる「局所作用」と、吸収されたあと血液中に溶け込んで全身へ運ばれて影響する「全身作用」があります。そして、局所作用には咽頭症状（不快感、むせ、疼痛、刺激感、違和感）、嘎声（させい）が0.5～2%の頻度で出現すると言われていています。また発疹、じんま疹、口腔および呼吸器カンジダ症、味覚異常、咳、口内乾燥、感染症が0.5%未満で出現する可能性があります。この局所作用は吸入機器の種類によっても出現する頻度に差があります。例えば、DPI（ドライパウダー製剤定量吸入器）だと声がれ（嘎声：させい）や咽頭の不快感が起こりやすいです。この場合は、吸入機器をエアージェットに変更することをお勧めします。口の中の頬の部分に白っぽい苔のようなものがついたときはカンジダ症（鵝口瘡）を疑います。抗真菌剤（フロリードゲルなど）を使用するとよくなります。特に哺乳瓶を使っている乳幼児で目立ちますので、哺乳瓶と乳首の消毒をまめに行ってください。これらの口腔内の症状の予防には、吸入後のうがい、またはお茶や水などを飲む、濡れたタオルで口腔内を清拭することをお勧めします。また、pMDI（加圧噴霧式定量吸入器）は口でくわえて直接噴霧する方法だと口の中に付着する薬が増えますが、スプレーを用いると付着が減りますので、できるだけ利用することをお勧めします。

次に、全身作用は吸入後に肺から血管へと吸収された場合と、口腔内に付着した薬剤を飲み込み消化管から吸収される場合があります。いずれも血液に溶けた薬剤が他の臓器に運ばれて生じます。そして、ステロイド薬の全身作用の中でも副腎機能抑制と成長抑制が特に問題視されます。副腎機能抑制に関して、小児ではFP（フルチカゾンプロピオン酸エステル）：400 μ g/日以上の使用で副腎機能不全の報告がありますが[Toddら, 2002年]、今のところFP:200 μ g/日相当以下の使用量であれば概ね問題がないとする報告が多いです[Galpinら, 1997年][Visserら, 2004年]。日本で行われた研究ですが、乳幼児喘息に対するBIS（パルミコート吸入液）の長期安全性検査では副腎機能低下が疑われた9症例において、詳細に検討を行ったところ臨床的

に問題となるような副腎機能抑制や成長抑制は認めなかったそうです[西間三馨, 2008年]。さて、副腎機能抑制に関する興味深いこととして、Martin RJらはFPを同じ用量投与したときpMDIの方がDPIより副腎機能値に影響したと報告しています[Martin, 2002]。つまり吸入機器の種類によって全身への吸収性(バイオアベイラビリティ)が異なることがあられると思います。副腎機能抑制について知る方法は、血液検査で内因性コルチゾールを測定する以外ありません。継続的に吸入ステロイド薬を投与中に、感染症をきっかけに低血糖になったとか副腎機能不全になったとの症例報告を学会で目にします。幸い私は経験がありませんが、今後も注意して観察することが大事ですし、できるだけ最小限の吸入ステロイド薬で最大限の効果が発揮されるように投与することが肝心です。

次に、成長抑制は外因性グルココルチコイドが下垂体からの成長ホルモン分泌を抑制する阻害因子となるため生じると言われています。BDP(ベクロメタゾンプロピオン酸エステル):400 μ g/日投与の検討では対照と比べて1.5cm身長が抑制されたと報告されています[Verberneら, 1997年]。またCAMP studyでは、BUD(ブデソニド):400 μ g/日の吸入を4年間行ったところ身長の伸びが開始後1年間で1~2cm程度抑制されましたが、4年間での合計身長には有意差が観察されなかったそうです。また他の研究では年余にわたるステロイド薬吸入によっても、最終身長は有意な抑制がなかったと結論されています[Agertoft, 2000年]。しかしながら、学童期では8~11歳が最も成長の遅い時期であり成長速度は年間5-6cmであるため、たとえ年間1.5cmの差でも25%の遅れとなります。一方、思春期や乳幼児期は成長速度が速く成長抑制の影響を受けにくい時期です。ICS(吸入ステロイド薬)の身長への影響は、性別、年齢、思春期の到来により個人差が大きいため、投与中は受診毎に身長測定し副作用の発現に注意することが大切です。

筆者は、この10年間で吸入ステロイド薬を止めなければいけないような副作用としては、口腔内カンジダ症、身長の伸びの抑制をそれぞれ数例経験しました。いずれの症例も抗真菌薬を投与しICSを一時的に中止して改善しています。こういった副作用を予防しながら、吸入ステロイド薬を上手に使い喘息発作をコントロールすることにより、生活の質を一層向上させることが大切だと思います。

今後、気管支喘息のコントロールを完全に達成するためには、ICSの適切な普及が鍵となるでしょう。プライマリケアで吸入ステロイド薬が浸透しない理由は、①喘息の診断、重症度評価が難しく、アンダートリートメントになりやすい。②吸入薬に関する医師の知識不足のため、適切な吸入デバイスを処方できない。さらに補助具を用いるなど吸入指導ができていないため効果にばらつきが生じる。③特にジェットネブライザーは時間と手間がかかるため患者・保護者がなかなか続けられない。さらに吸入薬は忘れやすい。④抗ロイコトリエン受容体拮抗薬(LTRA)が初めに投与され、喘息が軽症化していることなどが挙げられます。

もしICS導入後も喘息コントロールが得られなければ、まず吸入動作を目の前で実施してもらい手技を確認することが大切です。例えば、他院で3才

の子供に対して処方された pMDI を、直接吸入をするようにと言われたケースがありました。実際に実演してもらいましたところ、子供の吸気に合わせて母が pMDI をプッシュしていました。しかし子供は口を閉じたまま息をしません。口を開けるとプッシュしたはずのエアが吐き出さる始末です。この親子にはスプレーを紹介し使用方法を説明したところ、その後みるみる元気な日常生活が送れるようになりました。

最後に吸入ステロイドを浸透させる為に必要な事は何でしょうか？

- ① 切な吸入療法導入のポイントを医師が熟知する
- ② 看護師、薬剤師などコメディカルと連携し吸入指導を行う
- ③ 入療法の良さをしっかり患者・保護者に理解するよう説明する
- ④ 医師が副作用を含めて安全性について最新情報を学び患者・保護者の不安にこたえるよう努める

以上です。

今回は、抗ロイコトリエン受容体拮抗薬（LTRA）についてお話しします。

2、「おやじの小耳に挟んだ話題から」第十回 東海アレルギー連絡会事務局長 足代智志

入梅して、はっきりしない肌寒い天気かと思えば、真夏を思わせる日差しと体に負担のかかる気候ですね。

こんな時期にちなんだ話題でもと思っていたのですが、アレルギーとは直接関係しないのですが、考えさせられる話題が飛び込んできたので今回はそちらを。

患者会の会員さんのお子さんの友達（小学生）に会員さんが、「チョコレートって何からできてるか知ってる？」と尋ねたそうです。

するとその友達は、「チョコレートは、チョコレートからできてる！」と答えたそうです。

この話を聞いた時、二十数年前、テレビで、小学校の授業中、先生が魚の絵を描いてみて！と言ったところ、「切り身」を書いた児童がいて、その「切り身」のまま海で泳いでいると思っていたと放送されていた事を思い出しました。

スーパーマーケットが台頭し始め、個人商店の魚屋さんが減り、魚を切り身のパックで買うことが増えてきた頃のことだったと思います。

「食育」という言葉が出始めたのもこの頃だったように思います。

ほとんどの方がご存知のとおり、チョコレートには、アレルギーとなる「乳」が入っているので、それを説明しようと会員さんは尋ねてみたようなのですが、思わぬ答に慌てただろうと思います。

自分の子供に「食物アレルギー」があるため「原材料や食品表示」に関心をもっていますが、そうでなければ「この友達と私はもしかしたら、そう大差

は無いのかも知れない？」

まあ、大人としての知識があれば問題のないことなのですが、でも知る機会がなければ知らないでいるかもしれないと思いました。

子供が食物アレルギーであることに感謝の念を抱いたのと同時に、そのときの状況や話題に上った事を元に知識を広げる「機会教育」が大事なんだなあと感じました。

家族や友人・知人との雑談であれ、会話ができていれば、あまり問題にはならない事なのですが…。

3、「主婦大生ミラクル☆リカのアレルギーっ子育児奮闘記」

管理栄養士 寺倉里架

高校1年生・娘の食物アレルギー児のママであり、2009年の4月から大学院に通う主婦大生？こと寺倉里架と申します。

現在、娘は卵（卵黄の固ゆでは少量食べられるようになりました）、乳のアレルギーがありますが日々笑顔もモットーに過ごしております。

本日のテーマは

「食物アレルギー児だからこそ向き合うことができる」

4月から毎週金曜日に、あいち小児保健医療総合センターで経口負荷試験等の栄養指導の研修を受けています。

その研修中に感じたことがあります。

それは、

「食物アレルギー児の親だからこそ向き合うことができるんだなあ」ということです。

負荷試験の日は、ママはもちろん、パパ、おばあちゃん達も病室にみえることがあります。

そして、負荷が開始されると、先生はもちろん確認をしていますが、何よりママやパパが

初めての食品を口に入れる瞬間から

食べた後の症状をじっくりと観察することになります。

ほっぺが赤くなってきたかな？

少し掻いているかな？

いつもと咳の感じが違うかな？

まして乳児になれば、話すことはできないので

今日の泣き方はいつもとは違うかなあ？と

更に観察は重要になってきます。

こんな様子を見ていてふと思いました。
こんなにも子どもと向き合うことはあるのかあ〜と。
わたし達アレルギー児ママは、
今回の負荷試験に限らず、
日常何か症状が出ていないかな？
嫌がってないかな？
大丈夫かな？と
常に子どもを観察し、向き合って育児をしています。

近頃、子どもを見ているようで本当は何もみていない親が多い中、
食物アレルギー児の親で有るが故のこの観察力は、親子にとってとても良い
環境であるのではないのかなと思いました。

私たちは我が子のために誰よりも食事に対して考えています。
誰よりも子供と向き合っています。
そして、
病室で素敵に輝くママの姿を目の当たりにしました。

日々色々なことがあり、笑ったり、泣いたりすることもあります、
私たちママの輝きは無限大ということで・・・
これからも前進あるのみでいきましょうね。。。

4、アレルギーっ子のおいしいレシピ 「夏野菜ビーフン」 近藤由美

夏バテ気味なこの時期にぴったりな、夏野菜ビーフン！
甘味噌味が食欲をそそりますよ。野菜もたっぷり！アレンジも抜群！
ぜひ、お試しください。

レシピはこちらから

5、東日本大震災に対する支援活動のご報告 名古屋事務局 担当理事 栗木成治

東日本大震災のアレルギー患者支援活動の中で、地域の中に十分な診断を受けないまま食物除去を続けている子どもや、喘息・アトピーのコントロールが不十分な子どもが少なからず存在していることが把握されています。それは、患児や家族のQOL（生活の質）の低下をもたらして、家族の生活再建に負担となるばかりでなく、保育園や学校にも給食の提供などで負担増を強いています。

一方、この地域の医療機関には震災前からアレルギー専門医が不在で、経口負荷試験を含めた診療体制の弱さがありました。症状が重症化しないと病院に受診しない地域住民の気風もあり、病院に受診しないままにアレルギー

と闘っている患児が少なくありません。

こうした状況に対して、専門的な知識と経験を持ったアレルギー専門医が地域住民のアレルギー相談を行うことで、不必要な食物除去や不十分な治療状況にあるアレルギー疾患児を見いだして、地域の医療機関での診断・治療に結びつけ、またアレルギーの診療に意欲のある地域の若い小児科医と一緒に活動することで、専門的な力を育成して継続的な診療レベルの向上に資すること目的として、岩手県気仙医療圏（大船渡市、陸前高田市、住田町）において月1回程度、合計5回程度を目標として、地域住民に対する「アレルギー相談」を行っていきます。

又、このアレルギー相談をすすめる中で喘息用吸入器、スキンケア用品、寝具等の改善支援を求める患者についてはアレルギー支援ネットワークとして可能な生活支援もおこなっていきます。

今回のアレルギー相談は、県立大船渡病院 洲向透先生と私どもアレルギー支援ネットワークの理事でもあり、あいち小児保健医療総合センターアレルギー科のアレルギー専門医である、伊藤浩明先生、漢人直之先生らが、地元の医療機関や大船渡市、陸前高田市をはじめ関係機関のご協力を得て行います。

なお、本事業の費用は、NPO 法人アレルギー支援ネットワークが震災支援金としてお預かりした資金および東日本大震災助成金等で運営する計画です。

6、布団の丸洗いのご案内

7月に入り夏本番もうすぐですね。服装も夏の装いとなりましたが、毎晩お使いの布団類も夏用のものへと替えられた方も多いのではないのでしょうか。

毎晩使用した布団の中綿には、ぜん息やアトピー性皮膚炎の原因となるハウスダストやダニ、ダニの死骸やフンが多く蓄積されています。ご家庭で布団を丸洗いされる場合、中綿をしっかりと乾燥することができないと、ダニは爆発的に増えることがありますので注意が必要です。そのため、きちんとした専門業者で丸洗いされることをお奨めします。

布団の丸洗いを依頼される時のポイントは

1. 洗う前に高熱（60～80℃）処理を必ず行うことを確認すること
2. 循環水ではなく、流水で洗う業者を選ぶこと

です。生きているダニは中綿にしがみついていますので、洗う前に高熱処理でダニを殺すことにより、より洗い流しやすくします。また、ダニの死骸・フン、ダニのエサとなるフケや汗は水溶性ですので、それらが溶け出した循環水でいくら洗っても意味がありません。流水でアレルゲンを常に流しながら洗う必要があります。

寝具の手入れの仕方等について、アレルギー支援ネットワークのHPに詳しく掲載しています。また、アレルギー支援ネットワークでは大木産業(株)と協同開発した特別の工程で、布団の丸洗いを行っています。東海4県（愛知・

岐阜・三重・静岡)では無料でご自宅へ布団の引き取りに伺いますので、

布団の選び方と手入れの仕方

<http://www.alle-net.com/taisaku/dani04.html>

布団の丸洗い

<http://www.alle-net.com/taisaku/dani05.html>

7、第7期アレルギー大学 基礎・初級講座のご案内

第7期アレルギー大学は現在、愛知・三重・静岡・岐阜で基礎・初級コースが開講されております。

受講生の皆様はどのような感想をお持ちでしょうか。皆様のご感想もメルマガでご紹介させていただきたいと思っております。どうぞ、ご忌憚のないご意見をお寄せください。

そして7月からは千葉、新潟でも基礎・初級コースが開講されます。

アレルギー大学は、栄養士、調理師、保育士、看護師、養護教諭など専門職の方にはもちろん、アレルギーの患者、家族の方、外食・食品企業にお勤めの方など、どなたでもご受講いただける講座と実習ですのでぜひご受講下さい。

両会場とも、開講日が近づいておりますのでまだお申込でない方はお早めにお手続きください。

皆様の講座お申込をおまちしております。

詳しくは、インターネットで「アレルギー大学」のホームページをご覧ください。

<http://alle-sien.net/alle-dai/html/>

8、7月度「アレルギー児の親の交流会」開催のお知らせ

食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜん息など、アレルギーを持っているお子さんの事、アレルギーかな？とお悩みのある方、スキンケアや食事の事、園や学校についてなど私たちと一緒にお話をしませんか？アレルギー児の親の交流会が12ヶ所になりました。どこの交流会へも参加可能です。交流会を実施している区外、或いは近郊の市町にお住まいの方の参加やお問合せも多く、ご要望の多いところから順に交流会の開催準備をすすめています。参加希望の方はご連絡を下さい。お待ちしております。

7月は

4日(水) 西尾アレルギーの会 アレッ子元気 西尾市総合福祉センター
4階 洗心庵

4日(水) あま市アレルギーの会 甚目寺公民館 和風会

議室 1

5日(木) 守山アレルギーの会 研修室	守山区社会福祉協議会
10日(火) 名東区アレルギーの会 ンター・ボランティアルーム	名東区在宅サービスセ
12日(木) 天白アレルギーの会 ンター ボランティア室	天白区住宅サービスセ
13日(金) アレルギー支援ネットワーク ワーク 事務所	アレルギー支援ネット
14日(土) 刈谷アレルギー児の親の会 支援センター 談話室 A, B (旧市役所南庁に移転)	刈谷市民ボランティア
19日(木) 豊橋アレルギーの会 児童保育室	豊橋会館「さくらピア」
24日(火) 日進アレルギーの会	日進市北部福祉会館
24日(火) 名古屋南部アレルギーの会	南区社会福祉協議会内
26日(金) 緑アレルギーの会 和室	片平ふれあいセンター

春日井アレルギーの会 休み

【対象】0歳～中学生位までのアレルギー児の保護者

【参加費用】各交流会に確認して下さい。

お申込は電話 052-485-5208 URL<http://www.alle-net.com/>

皆様のご参加をお待ちしております。

9、乳酸菌粉末食品臨床試験、ご協力者募集！

現在、アレルギー支援ネットワークでは、市販されている乳酸菌粉末食品が
お子様のアトピー性皮膚炎にもたらす効果を検討する、臨床試験の参加者を
募集しています。

乳酸菌にはおなかの調子を整える働きがありますが、最近の研究でアトピー
性皮膚炎や花粉症の予防や治療にも補足的な効果がある事が報告されていま
す。

興味を持たれた方・応募についてのお問い合わせは

認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク 事務局長 中西里映子

TEL: 052-485-5208 Email: info@alle-net.co.jp

までお願いします。

10、「チャレンジ」をして「寄付」をしよう！

自分が何かにチャレンジをすることで、支援をしたい団体のために寄付を

集めることができるのをご存知ですか？この仕組みをジャストギビング（JustGiving）といい、2001年に英国で生まれました。ジャストギビングはインターネットを活用したファンドレイジング・ツールで、（ファンドレイジングとは、個人がNPOなど非営利団体のために寄付を集める行為のことです。）ジャストギビングのサイト上で自分が日頃抱いている「何とかしたい」という思いを「チャレンジ」というカタチに変え社会へ発信、そのチャレンジに共感した人が「寄付」というカタチで応援をしてくれます。そして、その集まった寄付が支援したい団体に寄付されるという仕組みです。チャレンジの内容はもちろん、支援先団体も自分で自由に決めることができます。日本においては、2010年3月よりサービスが始まっています。

現在、アレルギー支援ネットワークを支援先団体にしていただいているチャレンジは4つ立ち上がっています。また、今年で第7回を迎える湘南国際マラソン（11月3日（土・祝）開催）では、昨年に引き続き「東日本大震災復興支援大会」とし、被災地で復興支援活動を行なっている団体を選定し、ランナーからの募金に加え、その中から応援したい団体を選んでチャレンジを立てるチャリティを行なっています。今年もアレルギー支援ネットワークはその団体のひとつに選んでいただきました。皆様からのチャレンジ、応援をよろしくお願い致します。

詳しくは下記HPをご覧ください。

第7回湘南国際マラソン特設サイト

<http://shonan-m2012.justgiving.jp/>

ジャストギビングジャパン（JustGiving Japan）

<http://justgiving.jp>

11、「アレルギーっ子の防災セット」登録についてお知らせ

アレルギー支援ネットワークは震災を通じ直面した課題克服と今後の災害発生に向けて、「アレルギーっ子の防災セット」の普及活動を行っております。

緊急事態でも迅速かつ的確にアレルギー支援活動を行うための「アレルギーっ子の防災セット」は、「登録シリコンバンド」「緊急連絡カード」「安否確認システム」の3点がセットになっています。

お申込みはアレルギー支援ネットワークのHPから「安否確認システム」に登録することで、1患者につき「登録番号入りシリコンバンド1本」と「緊急連絡カード3枚」が郵送されます。登録対象者は、アレルギー患者本人または保護者の方です。アレルギー支援ネットワークや各患者会などの会員以外の方も登録可能で、一切費用はかかりません。ぜひ、ご登録をご検討下さい。

また、登録の際にご注意いただきたい点があります。下記の注意点をご確認の上ご登録下さい。

① 迷惑メールフィルター設定をしていませんか。

仮登録をされた後、本登録していただくためのホームページのリンクを仮登録で入力していただいたメールアドレスに送信していますが、迷惑メールフィルターによって受信不能（弾かれる）になっている方がたくさんいらっしゃいます。携帯端末だけではなく、yahoo や Gmail などのフリーメール、プロバイダ提供のメールフィルターでも起きています。

お手数をおかけしますが、迷惑メールフィルターの設定を今一度ご確認をお願いいたします。

PCメールの受信（システムからの自動・一斉送信を受信）、なりすましメール（メーリングリストからのメールを受信）の設定をお願いいたします。

その際のアドレス（ドメイン）は、@alle-sien.sakura.ne.jp と、@alle-res.com です。

② 登録の際、「ルート認証が確認できないため、接続できません」等の警告が表示され、接続できなくなる事があります。

ご登録の際に、i-mode や ezweb、Y!ケータイなどで接続すると表示が出てしまい接続できない場合があります。これは、暗号化通信で中継してくれるサーバがパソコン用（一部のドコモの機種に対応）の回線にしか対応できていないために発生しています。

これらを避けるため、皆様の登録の際には、「フルブラウザ」「PCサイトビューア」「PCサイトブラウザ」などのパソコン用のホームページ閲覧機能をお使いいただき、「ルート認証が確認できません」と出ても無視して接続してください。

それでも接続できない場合、登録や情報更新の時は、申し訳ありませんがパソコンをご利用ください。

また、すでに登録されている方で、パスワード設定をされていない方（2011年8月末から接続されていない方）は、防災ネットワークのトップページ左下の「パスワードを忘れた方は、こちら」の「こちら」をクリックしていただき、パスワードを設定してください。

新システムからご自身で登録情報の確認や更新ができるようになります。

なお、新システムはまだ改修途中で、登録内容の入力方法の簡素化や医療機関・協力組織との連動性の向上などを進めています。

皆様には、まだご迷惑をおかけするかもしれませんがよろしくお願い致します。

12、アレルギー教本「食物アレルギーの基礎と対応」のご案内

皆さまは、既にお持ちですか。

アレルギーに関わる皆様のバイブルとなる「食物アレルギーの基礎と対応」。

本書は、宇理須先生監修の下、アレルギー専門の医師やアレルギー対応給食の現場で活躍されていた先生等専門の方々に執筆・編集協力をしていただいております。充実した内容になっています。

アレルギーに携わる仕事をされている方、アレルギーのご家族がいらっしゃる方、アレルギーに関わる皆様はもちろん、アレルギーについて勉強がしたい、興味があると言う皆様にもぜひ、お手元へ置いていただきたい一冊です。

13、メールマガジン会員募集中！無料です。

アレルギー最新情報や地域の会の情報など、「アレルギー」に関する情報満載の「アレルギー支援ネットワーク・メールマガジン」。ただいまご購読会員募集中。ご購読は無料です。みなさんの周りの方にも、ぜひご登録をおすすめください。また「こんなことを取り上げてほしい」「知りたい情報がある」などメールマガジンで取り上げる記事についてのご要望もお待ちしています。あなたの声で、アレルギー対策が一步前進するかもしれません！
info@alle-net.comまでお気軽にどうぞ。

14、クリック募金にご協力ください

アレルギー支援ネットワーク「募金箱」へのご協力をありがとうございます。募金箱とは皆様がインターネット上から簡単に募金ができるサイトです。ご協賛スポンサー様のバナーをクリックしたり、ご協賛スポンサーサイト様でお買い物をしていただくだけで私達の活動を支援するための募金、寄付ができる仕組みです。ひきつづき皆様のご協力のご支援、ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。下記サイトからお願いします。

<http://alle-net.bokinbako.org/0002/?pg=1>

※認定NPO法人アレルギー支援ネットワークは寄付金控除対象団体です※
「giveone」

<http://www.giveone.net/cp/PG/CtrlPage.aspx?ctr=pm&pmk=10108>

「東海ろうきんNPO寄付システム」

<http://tokai.rokin.or.jp/npo/index.html> を通じても寄付をお願いしております。寄付の方法や支援していただく事業などは、各リンク先をご確認ください。また直接の寄付および領収書発行等につきましては、下記事務所までお問い合わせください。

＝＝＝
★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは

asn-mailmagazine@alle-net.com(メルマガ編集部)までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。
(メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けす

る場合がございますが、ご了承ください。)

★メルマガの転載について

無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、メルマガ編集部 asn-mailmagazine@alle-net.com までお尋ねください。なおメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

☆★☆☆みなさまからのご質問を募集中！アレルギーや支援ネットワークに関することなんでもOKです。ぜひお気軽にどうぞ☆☆☆

★みなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せください。

発行/編集 認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇

453-0042 名古屋市中村区大秋町 2-45-6(3月5日に事務所はこの住所に移転致しました)

▽TEL : 052-485-5208

▽E-mail : info@alle-net.com

☆◆-----